

あ ら さ い 理 事 長



公益財団法人岩手県体育協会

理事長 平藤 淳

6月の役員改選により、副会長兼理事長に就任しました平藤淳です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、地元開催の翌年として注目された第72回国民体育大会と第17回全国障害者スポーツ大会も終了しました。冬季大会では、スピードスケート渡部知也選手の2種目優勝、スキージャンプの永井健弘選手の2連覇、また、本大会での陸上競技高橋英輝選手とフェンシング成年男子フルーレの2連覇などをはじめ、岩手県選手は21競技で競技得点を獲得し、男女総合順位で14位と2巡目第43回京都国体以降では昨年の2位に続く2番目の好成績を残しました。また、大会でも、アーチェリー三浦ゆかり選手の2年連続優勝をはじめ金8個、銀10個、銅15個のメダルを獲得する活躍を見せてくれました。

さらに、日本代表など国際大会レベルの選手を対象とした新規事業「トップアスリート支援事業」の指定選手は、10月末現在で47名にのぼり、世界を舞台にした岩手県選手の活躍も報じられております。

これも県民の皆さまと一丸となって取り組んだ希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の成果であると認識しておりますし、さらに、加盟団体の皆さまのご努力はもちろん、賛助会員の皆さまをはじめとする関係各位のご支援・ご協力によるものであると心か

ら感謝しております。

さて、昨年の希望郷いわて国体・希望郷いわて大会は「広げよう 感動。伝えよう 感謝。」のスローガンのもとに行われました。大きな二つのイベントが終わり、「レガシー」という言葉を耳にしますが、私は、このスローガンが示す精神も「レガシー」として引き継ぐべきものの一つであると考えています。具体的には「スポーツの力で多くの人に感動を広げ、スポーツの力で全国の方々に感謝を伝える」ことを、スポーツ関係者が行い続けるということです。

勝利に向かって努力する姿は多くの方々に感動をもたらすことを、私たちは経験しています。また、達増会長がえひめ国体の場で述べたように、選手が強くなること・勝つことが感謝を伝えることであるということも確信しています。

スポーツの一大イベントを終え、新たなスタートをきった岩手のスポーツ界は、この先も、感動を広げつづけ、感謝を伝えつづければいけません。

「広げつづけてよう 感動。

伝えつづけてよう 感謝。」

を新たなスローガンとして岩手のスポーツを進めてゆくことを誓い、皆さまの今後一層のご支援・ご協力をお願い申しあげまして、ご挨拶といたします。